

コンパクトシンク

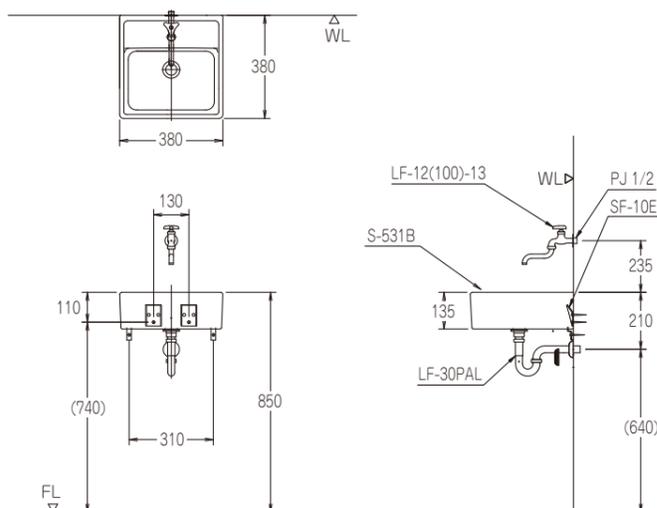
(G)S-531ANC
(G)S-531B

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この説明書をお客さまにお渡しください。

●施工完了図

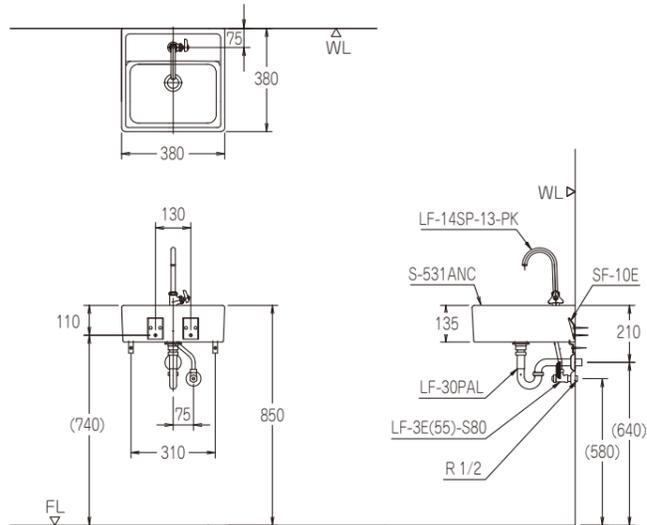
※水栓金具、排水金具、バックハンガー、AYボルト等は別途手配ください。

(G)S-531B + LF-12(100)-13 壁付け施工例



※()内寸法は、流しあふれ縁高さ(850)を基準にした参考寸法。
※排水管下に物を置く場合は排水管メンテナンスのため排水管下に60mm以上クリアランスを設けてください。

(G)S-531ANC + LF-14SP-13-PK 壁付け施工例



※()内寸法は、流しあふれ縁高さ(850)を基準にした参考寸法。
※排水管下に物を置く場合は排水管メンテナンスのため排水管下に60mm以上クリアランスを設けてください。

●安全上のご注意

- 施工前に、この/安全上のご注意ををよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工終了後、正常に作動することを確認するとともに、お客さまに使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、お客さまで保管頂くよう依頼してください。

用語の説明

注意 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

⚠ 注意

- 施工前に輸送中の破損がないことを確かめる。
施工後に施工段階での破損がないことを確かめる。
※破損部でケガをしたり、漏水により家財等を濡らす恐れがあります。 
- 陶器に対するねじは締めすぎない。
※陶器が割れてケガをする恐れがあります。 
- 施工後に漏水検査を必ず行う。
※漏水により家財等を濡らす恐れがあります。 
- 陶器に熱湯を注がない。
※陶器が破損してケガをしたり、漏水のため家財を汚す原因になることがあります。 
- 陶器に硬いものを落とさない。
※陶器が破損してケガをしたり、水漏れのため家財を濡らす原因になることがあります。 
- 陶器にひびが入ったり、割れた場合、破損部には素手で触らない。
※破損部でケガをする恐れがあります。 
- 陶器にひびが入ったまま使用しない。
※破損部でケガをする恐れがあります。 
- 砂、土が付いたまま洗わないでください。
※排水管が詰まり排水不良の原因になることがあります。 

●施工前のご注意

- 商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。
工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 施工の際には商品の表面にキズを付けないように十分注意してください。
- 取り付け強度を保つために、下地の補強木はJAS規格合板相当を使用し、補強木ねじ込み深さを27mm以上としてください。
- 現場調達のカウンターは、水平に施工してください。

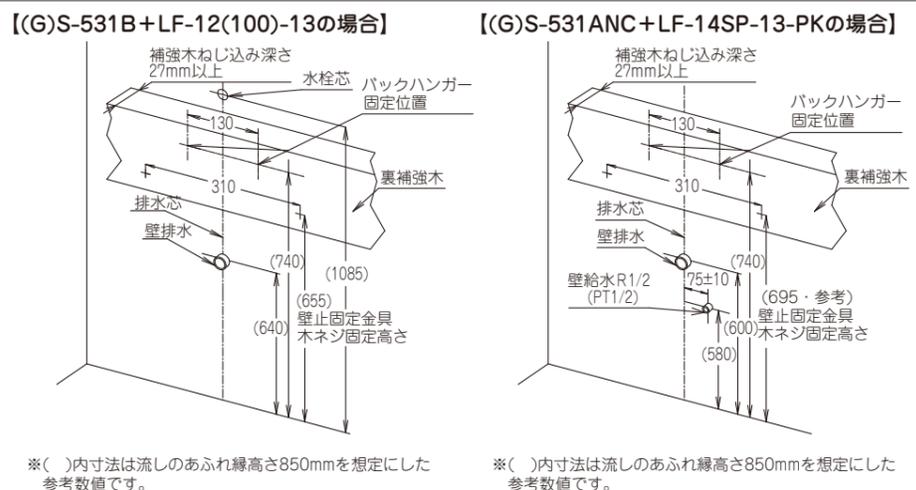
●施工方法

1. 給排水の位置決め、取出し

標準施工図に従って給水管・排水管を取り出してください。

◆注意点

- 器具取付前に給水管、排水管内に異物が混入しないようにしてください。
- 給水管にはプラグ(LF-7T)、排水管にはビニール袋等でカバーしてください。
- 強度確保のため、次のような補強をします。
[木造壁の場合]
下地の補強木はJAS規格合板相当を使用し、補強木ねじ込み深さを27mm以上としてください。
※補強木は構造体との固定を行ってください。
[コンクリート壁の場合]
取付部の奥行は75mm以上(コンクリート厚40mm以上)を確保してください。
※AYボルト(AY-24(1P):2本、AY-34(1P):6本)は別途用意ください。
※重量が20キロ以上ありますので、補強が不十分ですと陶器が傾き、鉢の中に水が残ったり、壁の間に隙間が発生する恐れがあります。



※()内寸法は流しのあふれ縁高さ850mmを想定にした参考数値です。

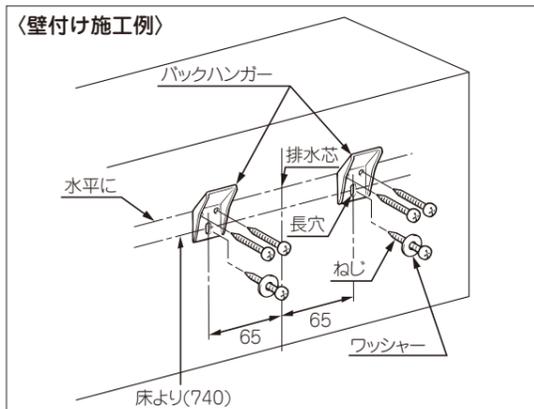
※()内寸法は流しのあふれ縁高さ850mmを想定にした参考数値です。

2. 配管内の清掃

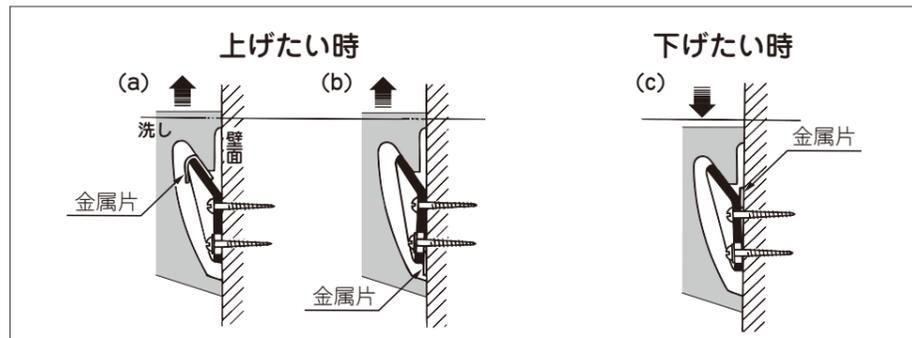
流しを取付ける前に必ず配管内のごみ、砂等を完全に洗い流します。
※給水管の防露対策は必要に応じて現場で行ってください。

3. バックハンガーによる流しの取付け

- ①右記の壁面の所定位置に左右のバックハンガーが各々傾きのないよう、また、左右の高さが同一水平面にそろうよう正しく取り付けてください。
※()内寸法は、流しあふれ縁高さ(850)を基準にした参考寸法。



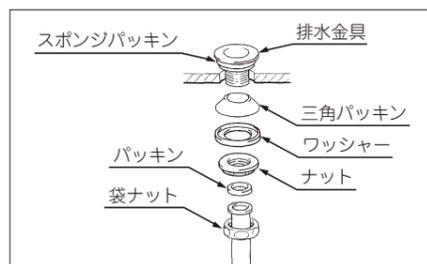
- ②流しをバックハンガーに仮取付けし、流しを押さえ左右の傾きやガタつき前下がりを確かめます。傾き、ガタ、前だれのある場合は、金属片の薄片を下がっている方または、ガタつく方のバックハンガーの上面(図a)に折り曲げて当て、また流しの前だれを直したい時はバックハンガーの下部(図b)に、下げたい時は上部(図c)に金属片をはさんで流しが水平になるように調節してください。不十分ですと水が残ったり、流しと壁の間に隙間が発生する恐れがあります。



※コンクリート壁の場合、AYボルト(AY-34)用下穴(Φ11、深さ70mm)をあけてください。

4. 排水金具の取付け

流しに排水金具本体を取り付けます。

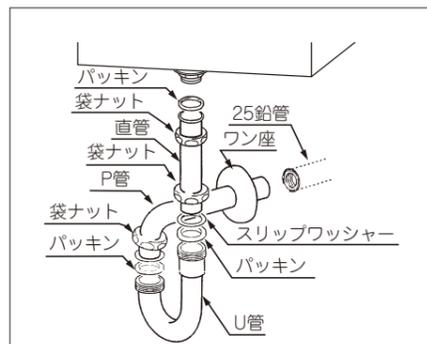


5. 排水管の接続

排水管の接続を行います。

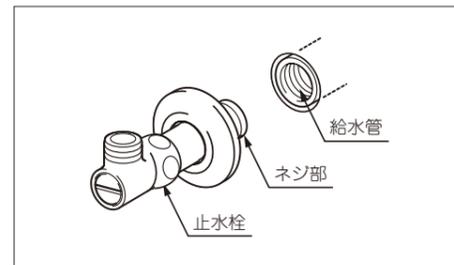
[Pトラップの場合]

- ※排水トラップを仮付けして、差込しろとして約30mm残してください。
※25鉛管との接続はハンダ付けしてください。
※30排水塩ビ管との接続はシール材で充てんしてください。
※壁排水芯の高さに応じて排水口下の直管を切断して下さい。



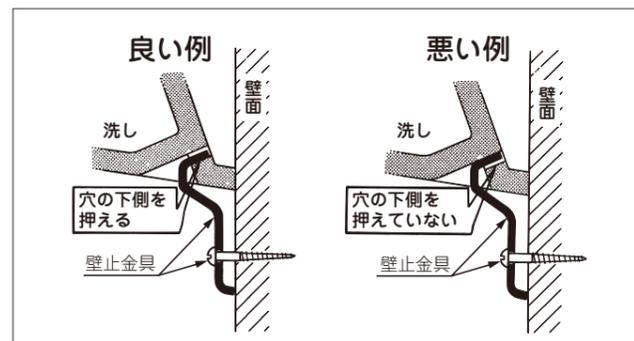
6. 止水栓の取付け ※デッキ水栓を組み合わせる場合

- (1)壁面(床面)の給水管に止水栓を取り付けます。
※ネジ部にシールテープ等のシール材を巻き付けてねじ込んでください。



7. 壁止金具の取付け

- (1)壁止金具の湾曲している側を流しの取付穴に当てがい、木ねじ穴の位置を当り、案内穴をあけて木ねじで締め付けてください。この壁止金具は締め付けると、流しを引き下げる力が働きますので強固に取り付けます。



※コンクリート壁の場合、AYボルト(AY-24)用下穴(Φ11、深さ60mm)をあけてください。

● 施工後の調節

施工後に給排水接続部の水漏れがないことを必ず確認してください。
※ 数回繰り返して水を流さないで確認が困難な場合があります。

※お引き渡し前の注意

屋外設置の場合、他の設備設置時の外壁の洗浄液(酸洗い)やモルタル吹き付け等により、汚れの付着や錆等の発生する場合がございます。また、設置後長時間風雨にさらされると、汚れが付着する場合がございます。そのため、設置後お客様にお引き渡しするまでは、ビニールシートでカバーするなど、汚れが付着しない措置を取って頂きますよう、お願いいたします。

■ 施工業者様

この説明書は必ず、お客様にお渡しください。

■ お客様

※排水管が詰まった場合は、はやめに排水管をはずしてメンテナンスしてください。

● ご使用方法

- ※砂、土の多く付着した物を洗う場合は、バケツ等の容器に、一旦洗いたい物を受けてからご使用していただき、砂、土が排水管に入らないようにしてください。
※排水管にゴミなどが詰まった場合はU管上下の袋ナットをゆるめ、U管を取り外しゴミなどを取り除いてください。
※U管内に汚水が溜まっているため、取り外す際はバケツ等で汚水を受けて床などを汚さないでください。